



東京女子医科大学病院

医療連携ニュース

2014年 春号



病院長
永井 厚志

病院長あいさつ

本年4月より病院長に着任いたしました。既にご承知のとおり当院では平成24年に医療連携の窓口として社会支援部を発足させ、新宿区を始めとする地域の医師会の先生方から頂戴しました問題点を順次、解決すべく病院全体で取り組んでおります。また、平成26年度の診療報酬改定では、病院に対する紹介率・逆紹介率の向上を求められており、更なる改善に努める所存です。

地域の医療機関の先生方には、これまでの医療連携へのご協力ならびにご支援に感謝いたしますとともに、今後も密接な連携を通して大学病院の役割である安全で高度な医療を提供してまいりたいと考えております。

何卒よろしくお願い申し上げます。



神経内科
診療部長
北川 一夫

診療部長あいさつ

4月より神経内科診療部長に着任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。神経内科は、高齢化社会を迎えた日本において、ますます患者が増える脳卒中、認知症、パーキンソン病などを含むすべての脳神経系疾患をカバーする診療科です。また筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、末梢神経・筋肉疾患など神経難病疾患に対する診療にも力を入れてきております。脳卒中では急性期診療から慢性期・再発予防まで重点をおき、また一過性脳虚血発作患者の的確な診断と治療、脳卒中予防対策にも力を入れています。当診療科の特徴は、脳卒中、運動ニューロン病、パーキンソン病とその関連疾患、神経免疫疾患、認知症、末梢神経・筋肉疾患など神経疾患全てに亘るエキスパートが揃っている点にあり、どのような患者さんが受診されても専門的な視点から対応できるという点にあります。このような東京女子医科大学神経内科の長所を生かし、脳神経外科、内科各診療部門との連携を強化して、地域医療のニーズにお応えできるように貢献していきたいと思っております。地域の関連する病院、医院の先生方との相互連携を強化していきたいと思っておりますので、脳神経系疾患が疑われる患者さんがいらっしゃいましたらどうぞ気軽にご紹介ご相談くださいますようよろしくお願い申し上げます。



3月31日、第1回小児がんシンポジウムを開催しました。



高橋系一先生



リレポートーク



司会: 永田智 (小児科教授)
世川修 (小児外科教授)

[基調講演]

1. 鍋島達也氏 (東京都福祉保健局医療政策部医療政策課) : 「東京都小児がん診療連携ネットワークについて」
 2. 高橋系一先生 (東京小児科医会会長) : 「小児科・実地医家の取組」
 3. 清谷知賀子先生 (国立成育医療研究センター・小児がんセンター) : 「小児がん拠点病院の取組」
- 藍原康雄 (当院脳神経外科講師) : 「東京女子医科大学病院の取組」

小児がんにおける「がん拠点病院」と「がん診療病院」の連携では、まだまだ発展途上の段階であることを共有し、リレポートークのなかで子どもとその家族の満足につながる連携について多様な意見が出されました。そのなかで、空きベッドの共有など実質的な連携と合わせて、子どもや両親の安心感につながる継続性を持ったインフォームド・コンセントがネットワーク作りの柱に据える事が望ましく、病院とかかりつけ医が同じ情報を持って関わる事が安心感に繋がるなど、医師同士の連携を密に図っていくことの重要性が示唆されました。年度末のお忙しいなか多くの方々にご参集頂きありがとうございました。

病診連携についての私見



一般社団法人新宿区医師会
会長

木島 富士雄 先生

元来、医療連携は、患者の主治医が患者を中心に、本人の疾病、希望、家族の事情等を十分に考慮した上で、自分が最も信頼する医療機関に、患者を紹介することで始まるものと考えます。

こうしたことから、現在新宿区医師会は、従来の患者紹介状の書式を全面的に改め、紹介理由・目的、退院後の返送希望の有無等を明確にした形式に変更するための作業を進めております。

これまで、東京女子医科大学病院と当医師会会員との間に、双方の信頼関係に問題が生じることもありました。その多くは、紹介患者を貴大学病院関連機関に振り分け、紹介元の医療機関に戻さなかった例などがありました。

しかし、立元前病院長のご努力で、現在は減少しており、その事実には敬意を表すると同時に、なお一層のご努力をお願いしたいと思います。

退院後の患者ケアの心配な例においては、紹介元の医療機関と連携を取られ、問題点を話し合い、定期的な外来通院等で解決していただきたいと思います。

超高齢化社会を迎え、本会と東京女子医科大学病院との連携は、ますます重要な課題と考えております。東京女子医科大学病院は、新宿区民や通院患者にとりましては、疾病治療への大きな希望の光でもあります。

新宿区医師会は、今こそ機能分化を確立する最良の時期と考えておりますので、これまでに培ってきた相互の信頼と親交をより一層強いものにしてまいりたいと思っております。

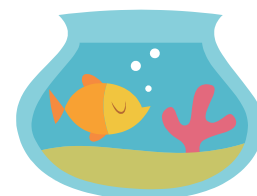
また、私共医師会にも先生方並びに関係者の皆様方の忌憚のないご意見を是非お聞かせください。



近隣の医療関係の先生方には平素より大変お世話になっております。
この度ご案内をかねて当科の新しい取り組みをご紹介させていただきます。
睡眠衛生が健康に重要な役割を果たしていること、児童の心の問題に対する関心が高まってきていることから、心身医療科にて「睡眠外来」と「児童精神外来」を開設いたしました。
つきましては是非患者さんをご紹介いただきたく存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■ 睡眠外来

睡眠全般についてお困りの方の診療を行います。
具体的には不眠、いびきや無呼吸、起床困難、日中の眠気、悪夢、寝ぼけ、睡眠中の異常行動などが対象となります。必要に応じて検査も施行いたします。



※精神疾患との関連が強いと判断された場合は、神経精神科外来での対応となります。

◇診療日： 月曜 AM / 水曜 AM / 木曜 PM
各曜日とも初診を前半に、再診を後半にお受けします。

■ 児童精神外来

小学生から高校生の方を対象とし、心の問題全般について診療や相談に応じます。
さらなる専門性が必要な場合は、適切な施設へのご紹介もいたします。
相談外来については、あらかじめ医師の診察を受けていただいた後、必要に応じてご紹介いたします。
なお、心理士による相談は「児童精神外来」通院中の方の利用に限定させていただきます。



※身体疾患に起因する症状性精神病の症例については、まず小児科にご相談ください。

◇診療日： 初診 火曜 AM
再診 月曜 PM / 火曜 PM / 金曜 AM
相談 木曜 PM (心理士) / 第 1 土曜 (精神保健福祉士) AM のみ

いずれの初診、再診外来とも **完全予約制** で、
初診時には診療情報提供書が必要です。

予約なく来院された場合や診療情報提供書がない場合は、後日の診察とさせていただくことがあります。
よろしくお願いいたします。

◇予約方法： 当院予約センター (03-3353-8138) にご連絡ください。
平日 9:00 ~ 16:00、土曜日 9:00 ~ 12:00 (第 3 土曜除く)



講座・講演会のご案内

東京女子医科大学がんセンター 平成26年度 がん教育講座 ー実践編ー の開催予定

- 6月10日(火) 胃がん
- 7月9日(水) がん化学療法の個別化
- 9月19日(金) 大腸がん
- 10月8日(水) がん治療と放射線
- 11月27日(木) 血液のがん
- 1月22日(木) 乳がん
- 2月26日(木) 卵巣がん

- 時間: 午後6時～7時
- 会場: 東京女子医科大学病院
総合外来センター5階 大会議室

※詳細は、開催1か月前に
当院がんセンターのホームページでご案内いたします。

主催: 東京女子医科大学がんセンター がん研修室
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

2014年 糖尿病 UpDate 講演会

- 6月19日(木) 18時～19時
演題: SGLT2の発見とSGLT2阻害薬への期待
講演者: 金井 好克先生
大阪大学大学院医学研究科薬理学講座生体システム薬理学教授
主催: アステラス製薬株式会社
- 6月26日(木) 18時～19時
演題: 糖化と糖尿病
講演者: 山本 博先生
金沢大学大学院医薬保健学総合研究科血管分子生物学分野教授
主催: 東京女子医科大学糖尿病センター
- 会場: いずれも 東京女子医科大学病院 第二臨床講堂

※詳細は、当院糖尿病センターホームページをご参照ください。

医療連携窓口のご案内

当院と地域の医療機関やかかりつけ医の先生方との連携の窓口として、紹介元の先生方からのお問い合わせや、電話やファクシミリによる外来診療やセカンドオピニオン外来の予約を行っております。FAXの専用申込用紙は当院ホームページ 社会支援部の「医療関係者の方へ」から専用申込用紙がダウンロードできます。是非ご活用ください。

*予約専用電話 03-5269-7160 <月～金 9:00～17:00、土 9:00～12:00>

*FAX診療予約 03-5269-7387 <月～金 9:00～17:00、土 9:00～12:00>

